藤江峰夫先生と末岡実先生を送る

二〇一四年三月三十一日付で、藤江峰夫先生と末岡実先生（着任順で藤江峰夫先生のお名前を先とさせていただきます）が、定年となります。

藤江峰夫先生は、一九八一年四月に福岡教育大学教育学部からフェリス女学院大学文学部国文学科専任講師として赴任され、二〇一四年三月まで、三十三年の長きにわたり、大学及び日本文学科のためにご尽力下さいました。一九八四年四月には助教授、そして一九九三年四月には教授に昇進され、また横浜市立大学、神奈川大学、横浜国立大学、お茶の水女子大学で非常勤講師も務められ、学内外で多くの優秀な人材を育てておられます。

その後学内では一九九三年から一九九五年まで入試部長を務められ、それを皮切りとして、一九九五年から一九九七年まで教務部長、一九九六年から一九九九年まで教育・研究用情報システムセンター長、一九九八年から一九九九年と二〇〇七年から二〇〇九年まで大学評議員、二〇〇三年から二〇〇七年まで大学情報センター長、二〇〇五年から二〇一一年まで日本文学科主任、二〇〇九年から二〇一三年までフェリス女学院評議員、二〇一一年から二〇一三年まで大学附属図書館長を歴任され、それぞれの領域において、実に多くの革新的な改革を推し進めてこられたことは履歴にも明らかなとおりです。

また御研究の分野では、科学研究費助成研究として「宗家文庫 和書分類目録」「黒川村公民館所蔵和書分類目録」、また井原西鶴と古典俳諧の研究を展開されてこられました。

また、実に魅力的な授業で日本文学科のみならず、他学部・他学科の学生の人気も高く、またゼミナールではきめ細やかな指導と共に研究の厳しさを教え伝える、優れた「師」であったことが思い出されます。また、私たち後輩にも、学内校務について貴重な助言・指導を行っていただいたことを懐かしく思い出しています。

一方、末岡実先生は、一九九〇年四月に北海道教育大学釧路分校非常勤講師からフェリス女学院大学文学部国文学科助教授として着任され、二〇一四年三月まで二十四年の長きにわたり、大学及び日本文学科のためにご尽力下さいました。一九九七年四月には教授に昇進され、また電気通信大学、鶴見大学、北海道教育大学教育学部旭川分校（集中講義）、共立女子大学で非常勤講師を務められ、学内外で多くの優秀な人材を育てておられます。

その後学内では、一九九七年から一九九九年まで学生部長を務められ、それを皮切りとして一九九九年から二〇〇二年まで日本文学科主任、二〇〇六年から二〇〇七年まで文学部入試主任、二〇〇九年から二〇一〇年まで教職課程主任、二〇〇九年から二〇一一年まで大学院委員・大学評議員、二〇一一年から二〇一二年まで教務部長、二〇一一年から二〇一二年まで言語センター長を歴任されました。

また御研究の分野では、科学研究費助成研究として「中国思想上に於ける『心』概念の成立とその展開」、また李翱を中心とした中国哲学、中国哲学史の研究を展開されてこられました。また、ユーモアに満ちた楽しい授業を展開され、大学では中国語の授業も担当しておられたことから、留学生との交流も深く、末岡先生の穏やかなお人柄を慕う学生が多くいたことは周知のところでありましょう。

二〇一四年一月十六日に行われた両先生の最終講義においては、受講生のみならず、両先生方の第一期生のゼミ長をはじめ、遠くから歴代のゼミ生も駆けつけ、加えて他学部・他学科の学生、また教職員も参加して、盛況のうちに終えることができました。

藤江峰夫先生と末岡実先生をお送りする言葉を認めながら、改めて両先生方の存在の大きさに気付かされますと共に、両先生の益々のご健勝とご活躍を祈りつつ、送る言葉とさせていただきます。

二〇一四年三月

日本文学科主任
佐藤裕子